高校生父兄懇談会開く

高校生の非行をなくし　健全な生徒の育成をめざして

最近、新聞紙上で問題になった高校生の売春問題をトップに、シンナー遊び、暴走族万引チームなど高校生の非行が紙面を賑わすことが多い。

県内の青少年非行は昭和四十年をピークにその後漸減していたが、四十六年から漸増し五十一年度は一つのピークになるような傾向にある。

本村青少年の非行も同じような傾向を示しており、他市町村よりもむしろ比率においては、上廻る比率を示している。

横越村青少年問題協議会（会長、神田村長）ではこの傾向を重視し、昨年に引続き七月二十三日、第二回横越村高校生父兄懇談会を開催した。

当日は、本村青少年問題協議会の委員、村議、区長など関係の方々をはじめ、保護者約七十名、中蒲福祉事務所長同係長さん、亀田警察署長、少年防犯課長、交通課長さん方、横越村から通学している二十四の高校のうち十三校の校長先生、及び生徒指導主任の先生方計三十名が出席されて懇談会が持たれた。

まずあいさつに立った神田村長から「高校生は次の横越村を背負って立つ重要なメンバーである。村としても青少年対策を重要視し施策の重点として取上げている。高校生の非行問題は誠に憂慮すべきことであり、家庭と地域、学校が連絡を密にして対策を講じていきたい」と青少年問題に対する熱意を述べられた。

高校生の実態を知ろう……熱心に聞きいる父兄

横越でも非行が少なくない

続いて、泉谷中蒲福祉事務所長から、県としての高校生問題に対する方針の説明があり、長谷川亀田警察署長から亀田署管内並に横越の実情について説明があった。非行の内容は主として、窃盗（万引）シンナー遊びである。横越村の青少年で昭和五十年度に刑法犯をおかした者が8名、ぐ犯不良行為で補導された者が65名である。この数は人口比率で他市町村にくらべて多い方である。横越村は村をあげて対策に熱意を示されているが実数は必ずしも少なくなっていない。

昨年、横越村の暴走族が解散し専ら野球に熱意を示して健全な学生生活をおくっている良い例もある。是非熱意をもって当られるよう強い要望があった。

父兄の注意が必要

向陽高校、新津高校、新津高校亀田分校、新津工業高校水原高校、新潟工業高校、新潟市立高校、新潟江南高校、加茂農林高校、五泉高校、北越商業高校、新潟青陵高校、白山高校の校長先生、生活指導の先生方から各高校における生徒の実態、生活指導の方針等について説明があった。

◎各学校では各校の実態に応じきびしい規則をもって指導している。然し、規則を破ったからといってすぐに停学とか退学にするということはない。

◎オートバイについては全面的に禁止している学校、馬力を制限し、通学巨離に応じて使用を許可している学校等種々であるが、交通事故防止については十分に指導をしている。

◎父親の権威がなくなって子どもが放任され我まゝになっている。バクイを買ってくれなければ学校へ行かないといえばすぐ買ってくれる。

◎無免許でバイクに乗ってもよいかといえば、あんまり遠くへ行くな。と言って許すなど。もっと幼児からの躾を重視していかねばならないのではないか。

◎タバコは家では吸ってもいいが、外ではだめだというような甘い態度。

◎子どもの勉強部屋が独立して、ともするとその中で放縦な生活が行われる。時々は実情をよく見て指導する必要がある。

◎朝飯をたべないで登校する生徒が多く、学校前の店が繁昌する。朝飯くらいは家の人と一しょに必ず食べてくる習慣をつけられないか。

等々、具体的な指導の方針が説明された。

中食時は用意された握り飯を食べながら、各学校別に別れて、先生方を中心にして個々の子どもたちについて懇談が行われた。

村をあげて非行防止に

午後、全体の話し合いが行われた。

○小、中学生の時代は割合に非行は少ないが、高校へ行くと非行が増してくるというのは、小中の時代の指導を見直す必要があるのではないか。危いという近づけないという指導が強すぎるのではないだろうか。

○横越のバスケットボールは非常にレベルが高く、県下でも有名である。これを村のスポーツとして青少年に参加できるようにしたらどうか。

○子どもの教育は学校にまかせておけば大丈夫という小中時代の考えが高校生になっても引続いていたが、父兄ももっと認識を新たにして家庭での指導に努めなければならないのではないか。

○シンナー、万引などどんな点に注意すればよいか。シンナーは前は神社とか橋の下などで行っていたが、最近は家の中が多い。臭いがしたりビニール袋などポケットにはいっていたら注意すべきだ。帰宅時間が遅いなどの場合注意しなければならない。など具体的な話し合いが行われ、最後に「高校生連合父兄会」の結成について協議、各校代表から参加して頂いて準備委員会を作ることを確認して懇談会を終了しました。

県青年大会下越予戦

女子バレー県大会初出場を決める！

去る七月二十五日、県青年大会下越予選が村松町会場に開催された。

本村からは女子バレーボール、男子バスケットボールが郡予選を勝ち抜いて出場した。

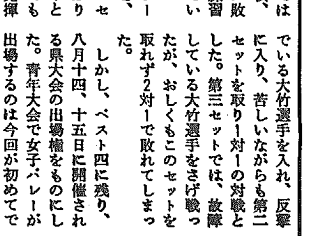
女子バレーは、一回戦白根市代表チームと対戦し、2対1で二回戦へ勝ち進んだ。二回戦では強豪山北代表チームと対戦、過去三年、この山北代表に敗れており、この日までの練習は打倒山北に目標をおいていた。

第一セット、横越はレシーブとスパイクに強みを見せ、一セットを先取した。第二セットに入り、山北は強豪ぶりを発揮し、セット数1対1とした。第三セットに入っても横越は日頃の練習成果を発揮し、セット数2対1で準決勝へと進んだ。

準決勝では、北蒲代表チームと対戦、横越は三試合連続と、エースアタッカーの大竹選手の故障により一セットを落してしまった。第二セットに入り、横越は、故障で休んでいる大竹選手を入れ、反撃に入り、苦しいながらも第二セットを取り1対1の対戦とした。第三セットでは、故障している大竹選手をさげ戦ったが、おしくもこのセットを取れず2対1で敗れてしまった。

しかし、ベスト四に残り、八月十四、十五日に開催される県大会の出場権をものにした。青年大会で女子バレーが出場するのは今回が初めてであるが、優勝も夢ではないと自信を強めている。

男子バスケットは、山北代表と対戦、国体選手、インターハイ出場選手は出場できない規則になっており、ありあわせチームで出場、残念ながら二回戦進出はできなかった。


玉の汗でコートせまし

旧四小学校の払下げについて

村では小学校の統合により廃校になった四小学校の一部とりこわしを考えています。同時に使い古した机等（児童用）も処分する予定です。そこでこれら払い下げを希望される方は八月三十一日までに教育委員会へ申し出て下さい。いずれくわしい説明会等は後日おしらせします。

第二回早起野球大会

ヤンキース優勝！

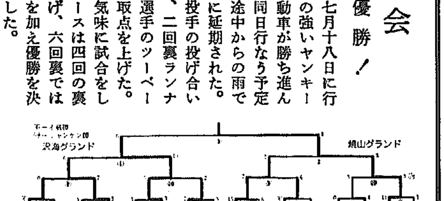
六月八日から開催してきた第二回横越村早起野球大会も七月二十二日無事全大会日程を終了した。

参加二十四チームとこれまでにない盛りよりを見せた。

昨年の村民野球大会、優勝チームのブラック、今回の有力チームの農協が一回戦で敗れるなど一回戦から破乱な試合展開となった。しかし、昨年の早起野球大会優勝のロートルズは順調に勝ち進んだが準決勝でおしくも藤田自動車に敗れ、二連勝をのがした。

準決勝は、七月十八日に行ない・投手陣の強いヤンキースと、藤田自動車が勝ち進んだ。決勝戦も同日行なう予定であったが、途中からの雨で二十二日早朝に延期された。

決勝戦は、投手の投げ合いに始まったが、二回裏ランナー二塁で風間選手のツーベースセットで先取点を上げた。その後も押し気味に試合をしているヤンキースは四回の裏にも一点をあげ、六回裏ではダメ押の二点を加え優勝を決定的なものにした。



木津・二本木部落対抗大運動会開催

六月六日（日）二本木グランド、オープンを記念して両部落対抗の運動会を木津分館が主催両部落・及び婦人会、青年会、野球クラブ、商工会等の後援と協力を得て開催しました。

あいにく朝のうちは小雨でしたが、開会式を一時間遅くして行い午前中、九レース午後十一レース行い四時半プログラムを全部終了しました。

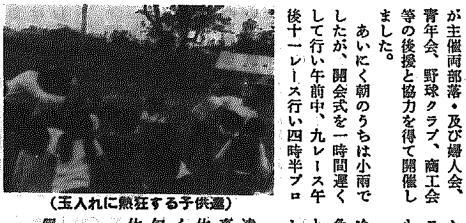
又、田中横越村公民館長を迎えて、グランド整備に尽くした遠藤組、渡辺工業、ナカムラ工業三社に感謝状の授与式も開会式前に行いました。

レースでは子供達にはパン喰い競争とサイダー早飲み競争が、大人には八〇〇米競争と、タイヤレースが好評を博した。

お昼休みに民謡クラブの人達二十二による、花笠音頭、真室川音頭の披露がありお昼休みのひとときを楽しませてくれました。その後に亀田甚句の大きな輪が出来て、お昼休みも又盛上りました。

成績は次の通り。

優勝　二本木部落
準優勝　木津部落
個人八〇〇米競争
一位　大森　久光
二位　栗山　利助


（玉入れに熱狂する子供達）

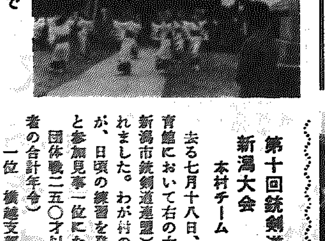
＜文化団体紹介　③＞

川根谷内民謡部

私達民謡部は、昭和五〇年四月高橋分館長元藤田婦人会長並びに婦人会役員の方々の協力のもとに踊りを愛好されておられる方を募集し発足いたしました

それ以来新築宮殿のお祭礼に出演し、外に部落の老人クラブ、盆踊り、敬老の日、文化祭、婦人会の旅行等に参加して踊りを披露してまいりました。

現在三十五名の会員でありますが希望の方は入会できますのでおいで下さいますように。又会員のみなさんは熱心で、今後は次々と多くの踊りを新しく習って行くことと、各団体との交流及び協力し合って文化団体協議会を盛り上げ、愉快な住み良い村造りを目ざして行く心がけです。


（お宮の前でうでまえを披露）

第十回銃剣道親善新潟大会

本村チーム一位獲得

去る七月十八日、新潟市体育館において右の大会（主催新潟市銃剣道連盟）が開催されました。わが村の銃剣道家が、日頃の練習を発揮しようと参加見事一位になりました

団体戦二五〇才以下（出場者の合計年令）

一位　横越支部B組

なお出場選手は次のとおり

佐藤　左右　桜井　久勝
佐藤　正夫　高橋　審夫
渡辺　正美

庭園案内

横越、神田惣次郎氏は八代目の当主、五代目の方が体格もよく風雅の道に興味を持たれ、当時（江戸時代末期）毎日田へ出ては帰りに土をかついで来て庭に山を築かれた。当時庭に大木であった松と立おっこ、三本のやしょうを中心に造園された古い歴史のある庭園である。その後当主が改造されて現在に至っている。